



The Japan Business Law Examination

ビジネス実務法務検定講座

2012年12月合格目標

「今から始める！3級合格への学習法」

～短期で3級に合格するための学習法～

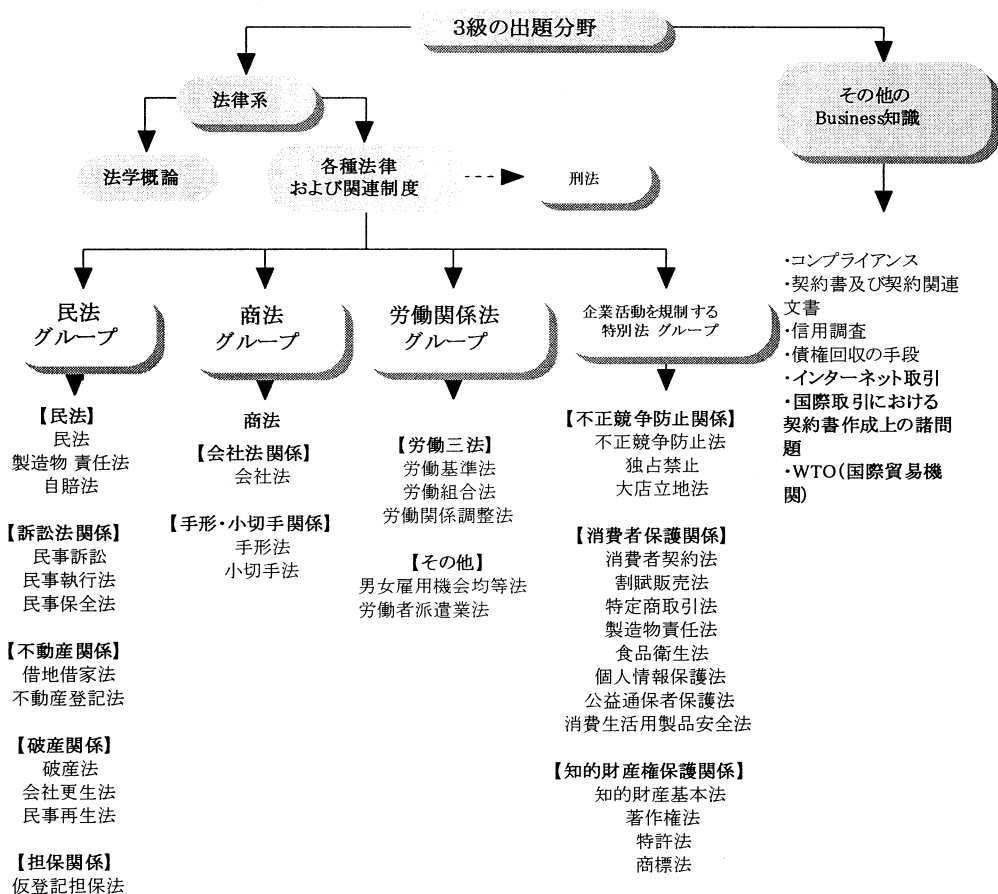
レジュメ

TAC

出題分野と受験対策について

3級の出題分野については下記に示すとおり非常に多岐に渡る。従って、まともに全分野を学習すると一発合格は望めない。所詮、70点で合格できる試験である。そこで、出題される部分を中心に学習していく必要がある。

出題傾向を分析した結果、出題の中心は民法・会社法である。そして、特に、民法はきちんとマスターする必要がある。民法を学ぶと、各種の法律の基本をなす考え方を学ぶことができるからである。



※出題される法律については、代表的なものに限定

先述のように、出題分野の中心は民法・会社法であるが、この二つの法律に限定しても、出題範囲はかなり広い。しかし、實際上よく出題されるのは、民法の分野でも財産法が出題の中心であるし、商法の分野でも、会社法が出題の中心となる。

第31回試験の傾向と第32回試験への対策

(1) 出題形式

3 級の出題形式は若干複雑であるが、基本的には正誤問題である。具体的には、以下のとおりである。

第 1 問 ◆一問一答→1点×10問:10点

第 2 問 ◆文章完成→5点× 2 問:10点

第 3 問 ◆四肢択一→2点× 5 問:10点

第 4 問 ◆一問一答→1点×10問:10点

第 5 問 ◆文章完成→5点× 2 問:10点

第 6 問 ◆四肢択一→2点× 5 問:10点

第 7 問 ◆文章完成→5点× 2 問:10点

第 8 問 ◆一問一答→1点×10問:10点

第 9 問 ◆文章完成→5点× 2 問:10点

第10問 ◆四肢択一→2点× 5 問:10点

(2) 傾向

全体的に前回の試験と比較すると、難易度は少し上昇している。

近時、3 級に関しては難易度が上昇しており、その傾向は今後も変わらないものと思われる。近時の難易度上昇の原因は、①2 級レベルの知識が問われたこと③四肢択一については、事例問題が標準的な出題となりつつことである。

(3) 対策

1. まず、一番有効な対策は、3・2級を同時受験することである。
2. 次に、3級のみ受験するのであれば、特定重要分野については、2級レベルの問題を同時にマスターすることである。
3. 第三に、今までは、民法・会社法のみで、軽く合格できた。現在もその傾向は存在するが、若干特別法のウエイトが上がってきている。従って、特に、知的財産権と消費者保護法、独占禁止法については力を入れる必要がある。

一発合格のための対策

3 級の場合、近時、難易度が上昇しているが、それ程特殊な対策は必要ない。基礎知識をマスターすれば、ほとんどの人は一発合格できるはずである。従って、以下の点に配慮して、学習すれば十分である。



受験対策の P o i n t

- ①出題可能性の高い分野である民法・会社法に力をいれて学習する。
- ②2 級の試験対策も視野にいて、3 級学習段階で、基礎知識を完全にマスターする。

ここまでは、3 級のみ受験の人も、3・2 級同時受験の人も、押えるべきポイントであるが、3・2 級同時受験の人は更に、以下の点にも注意する必要がある。

- ③3・2 級同時受験の人は、3 級については、満点を狙う勉強をすべきである。
- 2 級では、3 級と比較すると、かなり難度が高い知識が出題される。従って、3 級程度の基礎知識は完璧にしておかないと、2 級を学習する際の負担が非常に大きくなる（負担の適正配分のため）。